



# 工高タイムス

北海道旭川工業高等学校新聞局  
〒078-8804  
北海道旭川市緑が丘東4条1丁目1-1  
発行人(局長) 佐々木 晃成  
(電気科3年)

## 君安廣 交通安全スローガンで全国2位

### 「夕暮れに歩行者を照らす照(しょう)タイム」

安廣駿太郎君(建3)は全日本交通協会・毎日新聞社主催の令和7年度使用交通安全年間スローガン募集で、全国から寄せられた32958点の応募の中から一般部門Aで全国2位の内閣府特命担当大臣賞を受賞し、賞状と賞金2万円をもらえる。

スローガンは「夕暮れに歩行者を照らす照(しょう)タイム」。2021年の流行語大賞の「ショータイム」から考えたという。



スローガンを考えた安廣君(建3)

するように心掛ける。賞金は貯金する」と話した。

## 科会 建築交換意見

## 資格を多く取る 元気なあいさつが大事

建築科1年生を対象とした「若手建設産業界者」と高校生との意見交換会が11月7日2時間目に大会議室で行なわれた。市内の建設会社に勤める建築科の卒業生5人が来校し、建築産業界のやりがいや

目標などに関して体験談を踏まえながら1年生と直接話し合い、意見交換を行なった。交換会では、生徒が事前に考えた社内事情や上下関係に関する質問を卒業生にした。荒井建設株式会社勤務の松

坂瑛士さんは「社内は親しみやすい雰囲気です。所長や作業員を含め2〜3人で働くことが多い。自分たちが建設した建物を見たときにやりがいを感じる」という。新谷建設株式会社の田中理貴さんは会社の特徴を「本社が立て替えてフリーデスクとなっていて、空いているパソコンでデスクワークができる」と話した。現場監督である2人は「資格はトレーズとCAD検定2級、2級施工管理技術師補を取っておくと良い」とアドバイスした。

1年生の古俣君は「建設現場の環境にあまり良いイメージを持っていないが休日の多さ、しっかりとした福利厚生を聞き安心して働けると思った。また、資格を多く持っているほうが給料が増え、与えられる仕事も多くなると聞いたので、CAD検定は取っておきたい」と話した。藤原悠妃さんは「会社の男女比が気になったので橋本川島コーポレーションさんと谷脇組さんの2社に質問をした。どちらの会社も8対2くらい

の割合だった。職業柄、男性が多いので就職するときは率先してコミュニケーションを取り自分で働きやすい環境を作っていきたい」と話した。垣見壮馬君は「社会に出てからもあいさつはとても重要だ。目上の方と接するにあたって第一印象がとても大事で、その中でも大きな声であいさつすることは元気な印象がよく伝わりやすい。これからあいさつを意識して将来に備えたい」と話した。(建1野内)



産フェアで村上君(左)と山田君

## 産フェア エアエンジンを展示 専門職から助言をもらう

電子機械科3年の村上優馬君と山田虹君が10月26〜27日に栃木県宇都宮市で行なわれた第34回全国産業界教育フェア栃木大会に参加した。作品展示の工業部門には全国から20校が参加した。旭工は昨年度の全道工業クラブ大会でマイスター大賞を受賞したため今回の出場権を得て「旭工初代水平対向4気筒エアエンジン」

を展示した。エアエンジンは圧縮空気を使ってピストンを押すことで動力を生み出すものである。村上君は「緊張したが、来場者が声をかけてくれ、専門的な話をしてくれた。自分たちが仕組みを説明したときの反応が良く、とても楽しかった。エンジンの構造について理解していたので、細部まで

説明する際にきちんとできて良かった」と話した。山田君は「学校の先生方や企業の方が多く来ており、楽しそうに作品の説明を聞いた。エアエンジンがどこで使われているのか、エンジンの作り方について専門職の方から話を聞いた。今後のエアエンジン製作の参考になった。大会の後半には油不足でエンジンの動きが悪くなった。長時間にわたり複数回の作動をさせたことが原因だった。壊れる可能性があったためきちんと点検すべきだった」と話した。

現場の環境にあまり良いイメージを持っていないが休日の多さ、しっかりとした福利厚生を聞き安心して働けると思った。また、資格を多く持っているほうが給料が増え、与えられる仕事も多くなると聞いたので、CAD検定は取っておきたい」と話した。藤原悠妃さんは「会社の男女比が気になったので橋本川島コーポレーションさんと谷脇組さんの2社に質問をした。どちらの会社も8対2くらい

の割合だった。職業柄、男性が多いので就職するときは率先してコミュニケーションを取り自分で働きやすい環境を作っていきたい」と話した。垣見壮馬君は「社会に出てからもあいさつはとても重要だ。目上の方と接するにあたって第一印象がとても大事で、その中でも大きな声であいさつすることは元気な印象がよく伝わりやすい。これからあいさつを意識して将来に備えたい」と話した。(建1野内)



卒業生(左)の話を真剣に聞く建築科1年生

## 旭工 ライフ 26日に定期演奏会

### 吹奏楽部部长 長谷川悠斗君(機2)

第18回定期演奏会を12月26日17時30分から大雪クリスタルホール音楽堂で行なう。定期演奏会に向けて練習時間は、平日は15時40分〜18時、休日は9〜12時。18時以降も自主的に練習している部員もいる。練習内容は一曲に偏らずにバランス良くすべての曲をしており、部員は無料。

全員での合同練習を毎日している。定期演奏会は3部構成で、2部にあるメドレーではVチューバーの旭川ユカラさんが歌い、部員が踊ったり歌うなど様々なパフォーマンスを行なうのが見どころ。メンバーは部員が14人、顧問が3人、OBが4人の合計21人だ。昨年は旭川市民文化会館で行なったが、今年初めてコンサートホールで演奏できるので、部員がとも楽しんでみている。チケットは大人500円、高校生300円、中学生以下は無料。



焼き肉が好き



先日、旭川で行われた高文連上川支部新聞技術講習会に参加した。大会参加は入部してから3度目となる▼講習会では取材方法について詳しく講習を受けることができ、話を引き出すことが苦手な私にとっても良い機会になった。具体的には、焦って結論を急がずにリアルな対話を楽しむこと。相手の目を見て話すこと。沈黙を歓迎し、否定も断定もしないで聞くこと。そして、分かったかを確認せず、分からないと言えぬ雰囲気を作ることを。私は今回学んだことを、今後の取材や日常生活に生かしていきたい▼次に、各学校の新聞について紙面の良い点や改善点をグループで話しあった。他校の新聞と自校の新聞を比較することで、自校の新聞では取り上げたことのない記事や他校独自のレイアウトを通じて新たな学びを得た▼他校の新聞では全角と半角が区別されていなかったり、フォントや見出しの使い方などが改善点として挙げられていたが、その中でも特に多く指摘されていたのが見出しに関することだ。見出しの位置による視線誘導や文字の違いなど見出しに関することについて多くのことを学んだ。これから見出しを作るときには意識していきたい。講師の先生が行なった新聞クリニクの講評から、各校の新聞の良い点や改善点を書き留めることができたので、今後の記事作成や紙面のレイアウトに生かしたい。(建1野内)

# 見学旅行 3コースに分かれ研修 一人ひとり成長できた

2年生は11月6〜9日までの3泊4日で京都、大阪、奈良へ見学旅行に行った。1日目は新千歳空港から羽田空港を経由し、伊丹空港へ行きバスで清水寺へ。2日目は京都地区・コース別研修で、名所巡り、清水焼手びねり、友禅染体験の3コースに分かれ、午後は京都の自主研修。3日目は大阪に移動し、ユニバーサルスタジオジャパンで解散し、大阪の自主研修、4日目は奈良の薬師寺で僧侶の説教を聞き、奈良公園と東大寺を見学した。



京都のコース別研修で友禅染体験に参加した2年生(写真提供…富樫潤先生)

鹿間翔太君(化2)は「コース別研修では清水焼手びねりを選んだ。茶碗やお皿、湯のみを作った。土台を作り、粘土を細長く円状にして重ねていった。やってみるとおもしろかった。清水寺で学業のお守りを買った。大阪はユニバーサルスタジオジャパンでアトラクションを楽しみ、『名探偵コナン4-Dライブ・ショー〜星空の宝石〜』も見た。計4時間ぐらい並んだが、とても楽しかった。奈良では鹿に鹿せんべいをあげたのが思い出になった」と話した。

後藤拓人君(電2)は「コース別研修では友禅染体験を選んだ。トートバッグに自分の

好きな絵を選び、その絵を20以上の工程に分けて色を塗り、元の絵を完成させる。それを時間のある限り何回も繰り返し、自分だけのトートバッグを作った。友禅染体験と聞いて最初はどんな体験か想像もつかなかったが、絵心がない私でもできる体験で楽しかった。初めての関西でも楽しかった。自主研修は計画通りには行かなかったが、全員が満足して終わったので良かった」と話した。

平野真希君(機2)は「コース別研修では名所巡りを選んだ。金閣寺や竜安寺などの京都のお寺を回った。京都にはお寺が多くてびっくりした。寺院を巡る機会があまりないので貴重な経験ができて良かった。今まで学年全員で4日間



短歌コンテストで入選した岩部君

岩部龍弥君(機3)が北海道立文学館主催の第19回北海道小・中・高生短歌コンテストで入選した。このコンテストには7272首の応募があり、受賞が28首、入選が60首だった。248首が2次審査を通過し、そのうち旭工生は岩部君を含め7人。入選以上の作品は12月7日から

## 北海道小・中・高生短歌コンテスト 岩部龍弥君が入選 夏休みの思い出を歌に

来年の1月19日まで道立文学館のロビーで展示される。岩部君の作品は「瞬間が明暗分ける溶接は夏の夜に咲く火花のようだ」。岩部君は受賞の感想を「受賞したときは驚いた。正直賞を取れるとは思っていなかったのうれしかった。溶接の大会があり、夜遅くまで先生と練習していたことを思い出しながら書いた。国語の時間に書いたもので、担当の岸美千代先生にどういう内容を書いたら良いか教えてもらったことを参考にして書いた。夏の楽しかったことを思い出させて良い経験だった」と話した。

も一緒に行動することがなかった。集団行動の面では一人ひとりが成長できたので、

## 空手道 団体組手で優勝 「全道でも優勝を」

第42回北海道高等学校空手道選抜大会旭川地区予選会が11月10日に東光スポーツ公園の武道館で行なわれた。土木科2年生の荻原魁大君、小森

創介君の2人が3人制の男子団体組手で、荻原君が個人組手で優勝した。荻原君は「練習では刻み突きの色んな打ち方をしている。

今後の学校生活に役立つと思う。集団行動の大切さを学べて良かった」と話した。

調不良で出場できなかった。一人ひとりが最後まで全力で戦えたと思う。目標は個人戦と団体戦の両方での優勝だ」と話した。

特に中段蹴りと合わせて技を練習している。個人戦では上段突きと合わせの中段突きでポイントが取れてうれしかった。しかし、蹴りのモーションが大きく、うまくいかなかったことが反省点だ。全道までに上達できるように練習する。団体戦ではメンバー一人が体



全道大会出場を決めた柔道部

## 柔道部 3人制で優勝 団体と個人で全道へ

柔道部は11月11日に東光スポーツ公園の武道館で行なわれた第47回全国高等学校柔道選手権旭川支部大会に出場した。団体戦では稲垣椋也君(土2)、竹内空君(電2)、3人制団体戦と個人戦3人が全道大会出場を決めた。

葉君(土1)の4人で3人制優勝、5人制3位。個人戦では稲垣君が73kg級で3位、竹内君が66kg級で3位、笹川君が無差別級で5位に入賞した。

笹川君は「対戦相手の研究や組手の練習をした。団体戦では練習した返し技が1回決まった。また得意の足技が3回決まったのがうれしい。技だしが遅かった」と話した。



左から小森君、荻原君、秋好君

秋好遥輝君(土2)は「練習を積み重ねてきたが、大会当日に体調を崩し試合に出られなくて残念だった。全道では個人戦はベスト8、団体戦は初戦突破を目標にして頑張りたい」と意気込んだ。全道大会は1月20〜22日に札幌市で行なわれる。